

営農だより

水稲の管理のポイント

育苗管理

育苗段階	温度管理	管理のポイント
緑化期	昼間 20～25℃ 夜間 15～18℃	・緑化初期は直射日光を避けるため、育苗シートや黒い寒冷紗等で遮光し、1日程度弱光下で緑化させます。 ・草丈 3～4cm 程度で除覆します。除覆の時期が遅れると腰高になり徒長苗の原因となります。
硬化期 (初～中期)	昼間 25℃以下 ※高温に注意 夜間 10～15℃	・緑化終了後、約 10～14 日間管理します。 ・高温が予想される時はトンネルを剥いだり、ハウスのサイドを開けるなどの対処をして下さい。 また、低温が予想される場合は、保温に努めるとともに、 やや乾燥気味に管理し水分過多にならないように して下さい
硬化期 (後期)	自然温度下で生育	・本葉 2 枚目が出始めたら徐々に外気温に慣らし、植え付け前は昼夜ともハウスを開け放ち自然温度下で生育させる。(降霜には注意しましょう)

田植え

- 低温時の田植えは避ける！
地温が低いと活着が悪く生育が遅れます。また、水温が低いと除草剤の効きが悪くなります。
- 植え付け本数を適正に！
1 株当たりの植付け本数は 3～4 本を基本とします。(コシヒカリは坪 50～60、株その他品種は 60 株程度が目安)
- 植え付けの深さを 2～3 cm に！
深植えは活着が遅れ、分けつに影響します。また、極端な浅植えは除草剤による薬害や、倒伏しやすい傾向があります。
※田植え後、余った苗を水田に長期間放置しておくとう病害虫の発生原因となるため、早期に処分して下さい。

水管理

- 田植え後は、活着するまでの概ね 3～4 日間は水深 3～5 cm の水管理を行い、低温から苗を保護しましょう。
- 気温・水温が高い場合は、徒長する恐れがあるため水深 2 cm 程度の水管理を行って下さい。
- 活着後は、水深 2 cm 程度の水管理を行い「分けつ」を促します。また、田の水の入れ替えは気温と水温の温度差がなくなる早朝から夕方に行って下さい。(日中は保温のため水の出入りを止める)
※風の強い日は葉を守るために深水で管理して下さい

除草剤

令和 7 年島根おち稲作ごよみを確認し、使用時期・使用量を守り、雑草発生前からの防除を心がけましょう。



白ねぎの管理について (計画的な予防と栽培管理の徹底)

白ねぎの定植も最盛期を迎えましたが、今後、定植される方は準備を早めに行いましょう。

圃場準備

- 堆肥・ミネラル G・重焼燐を施用し、「ひっぱりくん」で定植しやすいよう、細かく砕土して畦幅 110～150 cm で深さ 5～10 cm 程度の植溝を作り、過リン酸石灰を施します。ネキリムシ類の防除としてフォース粒剤を 400 g～900 g/a 忘れずに散布しておきましょう。基肥の L 500 や野菜美人も植溝に施しておきましょう。(※フォース粒剤は劇物であるため、購入時に押印が必要なため印鑑が必要です)

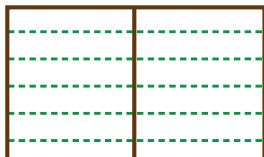
定植

- 定植前日にトリフミン水和剤(萎凋病予防) 200 倍液 1 l を苗箱に散布しておき、「ひっぱりくん」で定植しましょう。
定植活着後、ゴーゴーサン乳剤を散布し初期雑草を抑えるようにしましょう。(散布は雨天の次の日が効果的です)

排水対策

- ねぎは特に停滞水に弱いため、排水不良の圃場では、必ず排水溝を掘り、排水対策を徹底して下さい。

- ① 圃場の周辺に植え溝より深く、排水溝を掘る。(額縁排水)
- ② 畦を切り排水溝にたまった水が外に逃げるようにする。
- ③ 列が長く水が抜けない場合は、途中で排水溝を掘る。



露地果菜類(ナス、ピーマン等)定植の準備をお早めをお願いします。

土づくりは苗定植の 1 ヶ月前までに、基肥施用は苗定植の 2 週間前までに済ませ、土壌に水分がある(土を握ってバラバラに崩れない)状態でマルチ掛けをして下さい。早いマルチ掛けは地温を高め、苗の活着、初期の生育を促進します。また、定植後の風害(茎折れ等が発生し収穫時期が遅れます)から苗を守るため、肥料袋等での「あんどん」の設置をおすすめします。



(ナス：風害による茎折れ)



(「あんどん」設置状況)

※「あんどん」を設置することで、風害から苗が守られ、初期生育が促進されます。比較的单価が高い 6～7 月の出荷量が増える効果が確認されております。

- ✓ 設置期間が長くなると苗が徒長ぎみになるため、設置期間は定植後約 30 日間までとする。
- ✓ 被服をしていることで、苗の状況が見えにくいため、ネキリムシ被害の注意と対策が必要。
対策：定植時：ダイアジノン粒剤 5 400～600 g/a 作条土壌混和
- ✓ 栽培中は水分不足に注意して下さい。